矯正之魁 廢娼

復刻版概要

◉全一巻

◉第一号～第八号・一八九〇(明治23)年四月～一八九一(明治24)年三月

解説(竹村民郎)・総目次・索引付

◉菊判・上製・函入・総約三二六ページ

◉本体価格　九、〇〇〇円

◉推せん　小倉襄二

●弊社は注文制です。
お近くの書店にご注文ください。

表示価格は全て税別

不二出版
東京都文京区向丘一―二―一二　〒一一三
TEL〇三(三八一二)四四三三
FAX〇三(三八一二)四四六四

1993/4 ('02.4改)

●関連図書〈復刻版〉のご案内

上毛青年社　発行

上毛之青年

全二巻・別冊一

群馬県では西上州を中心として政治的青年団体が活発な活動を繰り広げていた。本誌はそのひとつである上毛青年会の機関誌として創刊された。本誌の最大の特色は、はっきりと全国の廃娼を目的としていたことにある。当時各地で廃娼運動が昂揚していたが、なかでも市民の手によって大きく盛り上がっていた群馬県の廃娼運動は、全国の運動をリードする成果を上げ、ついに廃娼を勝ち取るのである。日本近代史における廃娼運動の先駆の記録として復刻する。

内容―第一号～第三二号(一八八九年一月～一八九二年六月)及び
復刊第二号～第六号(一八九六年四月～一〇月)
別冊―解説(片野真佐子)・総目次・索引(別冊のみ分売可―一、〇〇〇円)
体裁―A5判・上製・総約一、二〇〇ページ
本体揃価格―三六、〇〇〇円

草創期の廃娼運動の足跡を辿る貴重資料の復刻！　全国廃娼同盟機関誌。

雑誌『廃娼』の創刊された一八九〇(明治23)年は、東京や群馬など各地でキリスト者を中心にさまざまな形で廃娼運動が盛り上がっていた時期であった。本誌には、婦人矯風会の佐々城豊寿、『女学雑誌』の巌本善治、『毎日新聞』の島田三郎そして植木枝盛、横井時雄など錚々たるメンバーが廃娼論を展開し、同時に各地の廃娼運動や全国廃娼同盟会の記事などが多数掲載されている。廃娼運動研究・近代史研究・女性史研究に必須の基本資料としてここに復刻するものである。

復刻版
廃娼雑誌社　発行
一八九〇年四月～
一八九一年三月

廃娼(はいしょう)

全一巻

不二出版

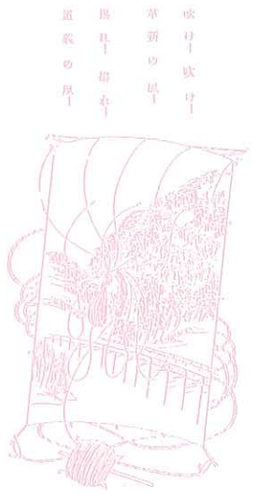
推せんのことば

廃娼運動史の節目を補完する資料

――小倉襄二

いま、なぜ、廃娼問題なのか。この問いはこうした貴重な資料が復刻されてひろく解読の機を得るときに私の想いをよぎる。〝廃娼〟ときくとセピア色にくすんだ古い写真に連想があり、かぎられた研究者のせまい主題のように思われている。詳論はつくせないがそうした考え方はあやまりで、わが国の近・現代史、社会問題研究、女性解放史、人権の史的展開の基軸に廃娼への多彩、苛烈なとりくみが深く投影している。廓の社会生態学、都市論といった視座、社会史―社会誌からの再発見もある。牢固たる廓システムとはなんであったか――それへの執拗な挑みの思想、それを表現したレトリック、記号にも新しい発見があるにちがいない。

廃娼運動史には、その興亡の指標に五つの節目があるといわれてきた。たとえば明治三〇年代以降の山室軍平の救世軍による自由廃業運動。そして明治四〇年代以降の廓清会の展開など。このたびの『廃娼』の復刻によって明治一〇年代の初期廃娼運動と三〇年代のそれに接続する二〇年代の思潮と実践を尋ねるうえで貴重な基本資料を得ることができた。基督教婦人矯風会と自由民権の連帯ともいうべき諸論説があり、号数はすくないが、従来の廃娼運動史の空白をも補完する基礎資料ともいえるものであろう。



廢娼　第二號　廿二

廢娼壯年の熱涙

佐々城豐洲女

魏然として半空より聳へ數層の樓閣軒を連ねて一廓を作り瓦斯電燈煌々として不夜城を爲し歌吹湧の如く舞踏鄉を開く、是果して明治政府の壯觀？　紳士豪商車を飛ばし驕奢を競ふ是果して明治年間の習慣？　況んや學校長の白日青天公然娼妓の必要を說くに至りて明治年代も亦腐敗此の極に至るを證明する者に非ずや、遊廓の繁盛あるを見れば如何んぞ悲憤せざるを得んや、と、泣然涙下る者ハ廢娼青年壯士某々の涙なり、如何ぞ女權の擴張を談する時ならん唯せめてハ男子の不埒と留め得ば可なり、今日の勢尙此不埒も制する能ハざる女子の境遇より非すや男子專制の抑壓も亦甚しからずや、と。

余も亦泣然として涙下る覺へず余の涙と潮干に見へぬ苦の石なるを知る、明治廿の春余ハ某會に藝娼妾全廢の件を發言し賛成する者少なく敗を再ひ發言し又敗れ三たびに及んで纔のに五六姉の賛成を得て始て其黨議となり後遂に其會の骨髓と成るに至れり、嘗てテムペレンスを組立るに際しても始より余ハ禁酒と言ハずして矯風と主張せしも全く當日の必要と感したれハなり、今より當時の事情を省みれば藝妓を廢すと云へば何となく耻ゐしく心に憶する所ありて人の言ふを嫌ふ所なり、廢娼妓などハ婦人の口より言ふハ婦德を損ずると言ふ如き言ふに言ハれざる一種特別の感情に引かれ又攻擊を蒙ると一方ならず、況んや廢妾の議に至りてハ恐を多き事共少なからず、夫れや此れやにて稍やくの事ゐて娼妾全廢の文字ハ黨議と成せしも當時世の文人學士ハ攻擊ハ一層の甚しきを加へ此事忽ち雜誌に新聞に口を極めて罵られ筆を盡して剛けらる、況んや當時廢娼妾の演說のある如きハ痛く翌日の新聞に誹謗せらる（本年の春三田廢娼演說も某學校の生徒同盟して

内容見本（第二号より）

関連図書〈復刻版〉のご案内

廓清

全33巻・別冊1

廓清会刊〔明治44年～昭和20年刊〕

本誌は一九一一年の吉原遊廓の大火の後、明治政府が復活を許可したのを契機に結成され以降30年間、底辺女性の救済を訴え続けた廃娼運動体＝廓清会の機関誌である。内容は、島田三郎・安部磯雄ら運動推進者の思潮、悲惨な娼妓の生涯・検梅制度・業者と警察の結託等の実態報告、そして運動の経過・資料統計など、廃娼運動史の宝庫と言える。

別冊＝解説（竹村民郎）・総目次・索引
付録＝婦人矯風会年表ほか
B5判・上製・総16、500頁
本体揃価格495、000円
別冊のみ分売可＝本体価格4、000円

婦人新報

全60巻・別冊1

日本キリスト教婦人矯風会刊〔明治21年～昭和33年刊〕

日本で最も歴史の古い女性団体である矯風会の機関誌である本誌の復刻によって、女権運動の先駆でかつ大きな柱であった矯風会の再評価がなされ、日本の女性たちによる長い闘いの轍をたどることができよう。キリスト教史・近代史研究にも大きな手掛りとなる基礎資料を前身の『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』あわせて復刻。

別冊＝解説（五味百合子）・総目次・索引
菊判・上製・函入・総30、000頁
本体揃価格840、000円
別冊のみ分売可＝本体価格18、000円

ときのこゑ

全21巻 補巻1・別冊1

日本救世軍編〔明治28年～昭和23年刊〕

日本救世軍の歩みは、そのまま日本の社会福祉の歩みといえる。あまりにも名高い娼妓自由廃業運動とその救済活動、生活困窮者・無宿者・刑余者対策、結核療養所創設、災害救済……等々その業績は、日本近代の社会問題、人権問題及び社会福祉の歴史を語るのに不可欠である。社会事業史・女性史・キリスト教史・人権運動史研究に必須の資料である。

補巻＝『日本救世新聞』『朝のひかり』「のど書」
別冊＝解説（室田保夫）・総目次・執筆者索引　全2巻
A3・B4・A4判・上製・函入・総9、042頁
本体揃価格400、000円
別冊のみ分売可＝本体価格40、000円